第１学年２組　学級活動（特別活動）

指導者　　月野木　諭

展開場所　みなみっ子ルーム

１　題材名　「防災ダック（日本損害保険協会）を使って安全・安心の第一歩を学ぼう」

２　題材について

（１）題材選定の理由

近年、熊本地震の影響による全国各地に起こりうる地震をはじめ、ゲリラ雷雨、豪雨、また豪雨による土砂災害などの自然災害、またそれに伴う２次災害を各メディアで目にするようになってきた。今年の８月２９日に起きた台風１０号は、関東地方に上陸しただけでなく、東北や北海道などにも勢力を伸ばし、日本列島全域に大きな被害をもたらした。今回の件も踏まえ自分の命を自分で守るためには、あらゆる災害を想定し、欲を言えば想定外を想定した訓練が大事であり、児童生徒には今一層に危機管理能力を高める必要があると考える。

今回本題材を使って学習するのは、小学１年生である。本来ならば幼児用で開発されたゲーム教材であるが、児童の実態を見る限り、学習することに効果があると感じて実践することとした。園育ちの児童が多い中、今までで防災に関することを知っているかを尋ねたときに回答したほとんどは、「地震のときに部屋の真ん中に集まりダンゴ虫になる」ということであった。つまり裏を返せば、地震に対する知識は知っているがそれ以外の知識は正しく身についていないことが浮き彫りとなった。

以下に本学級の児童の実際を載せるが、学校で行う訓練は、学校管理の下で学ぶため、学校内での安全・安心は守ることができる。以下を見れば児童の安全・安心を守るためには、学校以外や留守番などで自宅に一人でいるとき、または登下校時などの学校外でどのように行動すればよいかを考えさせることが大切なのかわかるであろう。

（２）児童の実態・実際（１年２組男子１４名、女子１２名）

（児童にはひらがなで質問、複数回答可）

〇幼児用防災カードゲーム「防災ダック」を知っていますか。

知らない２６

〇台風のときにあなたはどうしますか。

知らない　２２

じょうぶな建物にはいる　１

近くの建物に行く　１

よくニュースを見る　１

ガラスが割れてもいいようにガラスから離れたところに行く　１

〇外にいるとき雷がなったらどうしますか。

知らない　８

マンションの避雷針の近くにいく　１６

電線の近くに行く　１

木の近くに行かない　１

金属を持たない　1

〇家で一人でいたときに地震がおきたときにどうしますか。

知らない９

頭を隠す　5

防災ずきんを（あったら）かぶる　4

頑丈な建物に行く　2

海の近くに行かない　6

〇海に遊びに行って津波がおきたときどうしますか。

わからない　１８

「津波」を知らない６

高い所へ行く２

〇近くのおうちで火事が起きたらどうしますか。

知らない１７

ハンカチで口や鼻を押さえる　4

消防車を呼ぶ　3

外に逃げる　2

〇近くで洪水が起きたらどうしますか。

知らない　２５

「洪水」を知らない　２０

高い所へ行く　1

〇知らない人にさらわれそうになったらどうしますか。

知らない　２１

こども１１０番の家に逃げる　2

大きな声で知らせる　2

〇ひったくりに合いそうなときどうしますか。

わからない　２６

ひったくりを知らない。２０

〇蜂が近くにいたらどうしますか。

知らない　２０

しゃがむ　2

刺激を与えない　3

近づかない　1

（３）児童の実態・実際からの考察

児童の様子を見る限り、児童はおそらく災害のような問題を自分のものとして考えるようなことをしたことがない。もちろん今までにそのようなことを目の当たりにしたことがないということもその理由かもしれないが、自然災害が多くメディアで取り上げられているような時代の中で、児童自身が自分には関係のないものと捉えてほしくない。異常気象と言われ続けている時代を生き抜くために、自分の命を自分で守ろうとする力は備え持ってほしいと考える。

特に、「津波」、「洪水」を知らないという回答が出たことから、まず、児童にその恐ろしさをつかんでもらうことが大切であることがわかった。また、いろいろな災害に対して、どのように対応すればよいかを「知らない」で答える児童が多いことから、最初の第一歩だけでもどうすればよいかを学ばせる機会が必要であると感じ、この題材が適していると考えた。

３　指導の構想

（１）指導観

防災知識を教え込むということは避けたい。ただ、災害の恐ろしさを正しく理解してもらうために、事前指導として「地震」「津波」「川について」「大雨・雷・竜巻」に関するDVDや画像資料を見せてきた。小学１年生としては、若干刺激的な内容だったが反応はよく、そのたびに険しい顔になり、それぞれの恐ろしさが少なからず伝わったであろう。

また本時では、児童に学びをもたせること重点に置いた。展開としては、本時までにあらかじめ「防災ダック」の動物の動きのみを覚えさせ、本時でその動きが、「防災ダック」の災害カードにどのような対応ができるかを考えさせるようにしていく。４人～５人のグループで構成し話し合わせ、１２の動物のどの動きが１２枚の災害カードに適しているのかを考えさせていく流れである。

その後災害時、反射的に動けるようにするために、災害カードを出して、その動きをさせる遊びを取り入れる。その際、本校の研究では、英語活動を行っているため、より楽しめる活動をするために、動物の名前を英語で言わせるなどのことも取り入れていきたい。

また最後に、第一歩を学んだだけでは想定外に対応できないことを味わわせるために、第一歩を行動して、その後をどうするかを考えさせる質問を用意する。今覚えた動きだけでは、対応しきれないことを考えさせ、そのときにどう動くかを判断するときがくるということも学ばせていきたい。

（２）指導の工夫

〇モジュールをとった題材の構成

学級活動でとる時間は、１年生においては年間３４時間と限られていて、安全教育を指導するにあたっての課題ともなっているのだが、すべての安全教育を特別活動として時間をとっていくことは難しい。そのため、そのようなDVDや画像資料は、朝の会、帰りの会などを使い、モジュールで学習時間をとった。恐ろしさの指導として、約２時間分はとれた。他教科と絡ませて安全教育を指導する手法もあるが、１年生における単元と絡ませて安全教育を指導するには難しい。

〇意図的にグループを分ける

本時は、４～５人を１グループとして活動する。本学級では、話し合いに仲の良い友達でないと、まったく話さない友達がいる。だが孤立している児童はいない。今回は、より話し合い活動が充実するように、気の合う児童同士の集まりにし、なるべく多くの児童が話し合いに参加できるようにした。学級活動などから見えた児童の実態を踏まえての配慮である。

〇防災ダックを使って

防災ダックの使用の仕方は、「災害が起きたときの安全・安心の第一歩」を習得する目的の教材である。本来であればカードの災害面を児童に見せて反射的に最初の行動ができるようにしていくものであるが、そのように使用せず、本時で児童に「なぜこのような動きをするのか」を考えさせるようにした。考え意見を出し合うことで、自分自身の気づきが生まれる。気づくことができれば、

学習することに深みが生まれるのであろうと考える。

4　題材の目標

○　災害、防犯などに対する安全・安心の第一歩を知る。

○　「防災ダック」のカードにどのような意味があるのかを理解させ、各々の災害に対し、なぜ第一歩が必要なのかを考える。

○　実際の災害はどうなのかを理解し、危機管理しようとする気持ちを高める。

5　題材の構成　（４時間構成）

学習の目的	学習内容と活動	時配
地震・川の氾濫・津波・大雨・雷・竜巻などあらゆる自然災害の恐ろしさを知る。	○各映像を見て、自然災害の怖さを知る。２次災害についても話し合う。 ・地震　映像資料（写真） NPO 法人　ちば危機管理研究支援センター　監事　深浦喜久雄（元あやめ台小学校長） ・川について「安全な川遊びのために」 NPO 法人　川に学ぶ体験活動協議会 ・津波について「津波からにげる」　国土交通省　気象庁 ・大雨・雷・竜巻「大雨・雷・竜巻から身を守ろう！」　気象庁	２ モジュールで時間をとる
動物の動きを楽しむ	○防災ダックの動物の動きを楽しみながら覚える。 防災ダックの話をせずに、動物の動きのみを習得する。	１ モジュールで時間をとる
「防災ダック」を使って安全・安心の第一歩を理解する。 各々の災害に対し、なぜ第一歩が必要なのかを話し合わせ、話し合い活動の充実を図る。	・動物の動きを確認する。 ・グループになり、災害カードがどの動物の動きになるのかを話し合いながら、正解を考えていく。 ・災害カードを使って、動物の動きをまねたり声を出して遊んだりする。 ・安全・安心の第一歩からだけでは、自助することは難しいことを知り、その後どのような動きをすればよいかを考える。 使用教材：防災ダック（日本損害保険協会） じしんのえほん　こんなときどうするの？（ポプラ社）	１ （本時）

6　本時の指導（４／４）

（１）ねらい

・「防災ダック」を使って安全・安心の第一歩を理解する。

・実際に起こる災害に対し、自助の大切さを理解する。

時配	学習活動	○教師の支援・指導上の留意点	資料
導入 5	１　ウォーミングアップを行う。 ・教師が言う動物になる。	○忘れていたり、活動が止まっていたりする児童を探し、気の合う仲間の近	

		くに誘導して楽しく活動できるようにする。	
展開 ３０	２　ねらいを知る。	○動物の動きが何の意味を表していたのか考えたことがあるかを質問し、それを明らかにするということを示し、学習の意欲を高めさせる。	
	「ぼうさいダック」をつかって、あんぜん・あんしんのファーストムーブをしろう。		
	３　グループに分かれる。 ・４人グループ×４組 ・５人グループ×２組　計６組	○あらかじめ、グループを組んでおき、話し合いが偏ることが少なくなるようにする。	
	４　教師よりワークシートをもらう。	○グループのリーダーをあらかじめ決めておき、このような場面で滞りがないようにする。	ワークシート
	５　災害カードに対し、今まで学んだ動きのどれが適しているかを考え、話し合い、答えを導き出す。	○話し合いに参加できない児童がいたら声をかけ、本人の考えを聞き出すようにする。 ○早く終わったグループには、消去法で選んだものについて、なぜそう思ったのかを答えられるようにするために、さらに話し合わせる。	
	６　答え合わせをする。 ・各グループ順番に答えを発表していく。 ・教師が正解を発表する。	○答えを共有して、互いに合っているか確認し、間違っていると思えばその意見を発言させる。 ○悩んでいたカードにおいては、児童が納得するために説明を加える。	
	７　防災ダックで遊ぶ。	○順番に何度もカードを出し、反射的に動きや声ができるように練習していく。	防災ダック
終末 １０	８　絵本「じしんのえほん」を見て、ファーストムーブを発表し、その後どうするかを考え発表する。 ９　今後起きうる首都直下地震についての話を聞く。	○実際起きる災害には、ファーストムーブだけでは、対応できないことを感じさせる。 ○家族に頼ること、自助を優先的に考えることを理解させるような話をする。	テレビ （絵本をテレビに映す）

ただしい　ファーストムーブを　せんで　むすびましょう。

じしん	•	•	ラクーンドッグ
つなみ	•	•	フロッグ
かじ	•	•	ラビット
たいふう	•	•	ダック
こうずい	•	•	タートル
かみなり	•	•	チーター

はち

どうろ

ゆうかい

しっている人

ひったくり

わるいこと

カンガルー

シープ

マウス

モンキー

エレファント

ドッグ

（　　）グループ